

花巻市石鳥谷地域協議会 平成 22 年度第 5 回会議 会議録

【日 時】 平成 22 年 12 月 24 日（水）午前 9 時 30 分～午前 11 時 15 分

【場 所】 石鳥谷総合支所 3 階 大会議室

【出席者】 地域協議会委員 9 名（欠席委員：長澤勝美委員、鈴木俊一委員、熊谷幸雄委員）

当局：（本庁）政策推進部企画調整課 市村課長、松田課長補佐兼企画調査係長、古川企画推進係長、菅野行政経営係長、寺林上席主任、佐々木上席主任、粒針上席主任、鎌田副主任
（支所）菊池総合支所長、高橋地域振興課長、照井市民サービス課長
各課長補佐 3 名、当職
（振興センター）関局長（大瀬川）、熊谷局長（八日市）、鎌田局長（新堀）

【協 議】

- 花巻市総合計画（見直し素案）について（諮問）
会議冒頭、花巻市長（代理：企画調整課長）から会長が諮問を受けた。
 - ・企画調整課から内容説明を受け、質疑、意見を述べた。
 - ・諮問案件について審議継続となった。
 - ・次回会議開催予定：平成 23 年 1 月 12 日（水）午後 2 時から 石鳥谷総合支所

【報 告】

- 小さな市役所第 2 ステージ（合衆市イーハトーブ花巻構想）について
 - ・地域振興課から資料により報告した。
- 石鳥谷地域課題について
 - ・地域振興課から資料により報告した。

【その他】

- ・会議を傍聴した者 なし

※ 会議での発言等は別紙顛末のとおり

※ 会議における当日配付資料は以下のとおり

「小さな市役所第 2 ステージ（合衆市イーハトーブ花巻構想）について」

「石鳥谷地域における地域課題について」

※ 事前配付資料は以下のとおり

「花巻市総合計画の見直し概要について」、「花巻市総合計画（見直し素案）」、

「主要指標の推計について」、「花巻市総合計画事業一覧」

※ 顛末

○ 進行 / 高橋地域振興課長

1. 開 会 菅原久男副会長が開会を宣した。9:30

2. 会長挨拶

おはようございます。平成22年度も残り1週間となりました。大変お忙しいところだったと思います。ご参会いただきましてありがとうございました。

今日の会議の内容は既にお知らせしておおりであります。私から申し上げるのもどうかと思いますが、実は12月17日に市の総合計画審議会の席上、私は説明をいただいております。率直に申し上げますが、皆さんのお手元に行っている資料をご覧になりまして、どうお考えになったでしょうか。大変な労作だと思いました。お恥ずかしいお話ではありますが、私もOBの立場ですが、私共がやっておった頃は、この類のものはですね、コンサルタント会社の丸投げに近かったんです。職員が手がけたことももちろんありますけれども、なかなか、論旨を組み立てて、数字を合わせて、整合性を保つということは難しいことでもあります。そういう意味で、17日の審議会で説明をいただきましたが、大変、市役所の方々がご苦労なされたと言うことが率直な感想であります。

二つ目に申し上げたいと思いますが、今回の計画は、このとおりの大作でありますので、即日にお答えを出すというそういう類のものではありません。ご説明をお聞きになりました上に、お持ち帰りを頂きまして十分に熟読していただきたい、そう思っております。

このことを踏まえまして、今日は二つありますので、前半は総合計画の見直しの素案についての説明をいただいて、質疑応答と意見交換を行いまして、そして後半は小さな市役所の合衆市構想の説明をという格好にしたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。午前中の日程でございますので、どうぞ生産的なディスカッションをお願いいたします。以上をもちましてご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

3 諮 問

高橋地域振興課長

ありがとうございました。諮問及び審議に入りますが、「花巻市総合計画（見直し素案）」につきまして、花巻市長の代理として政策推進部企画調整課市村課長から石鳥谷地域協議会菅原会長に諮問を行いますのでよろしく願いいたします。前の方をお願いいたします。

<企画調整課長が、諮問書を読み上げ、諮問書を菅原会長に手渡しした。>

菅原昭造会長

承りました。

それでは、ただいま正式に市長から諮問がございましたし、冒頭申し上げましたとおり、本日の会議のメインな部分であります。即、総合計画の見直し案について説明をお願いします。

政策推進部企画調整課企画推進係古川係長 資料により説明

菅原昭造会長

大作な複雑なものを短時間で説明いただきました。とりあえず今日はお気づきの点について質疑あるいは意見交換したいと思います。次回に、まとめていきたいと思えます。冒頭に、市長からの諮問の事柄がありますけれども、この計画で石鳥谷地域協議会としていいのか悪いのか、あるいは意見があればどういうことがあるのか、そういう形での方針を次回はまとめていきたいと思えます。今日は基本計画と構想の段階でありますので、どこの場所にどんな道路を作るとかどこの場所にどんなふうな形のものを作るとかというものは入っていません。それは、実施計画のレベルで入って参りますので具体的なものがないな、ということについては、実施計画の段階で出てくるということをご承知おきいただきたいと思えます。

27年までの5年間の既に計画があるものを、時代の流れの中で、特にアンダーラインの入っている所について見直したいという諮問であります。既にあるものの諮問であります。特に誰でもわかるのは、平成27年に人口が10万人を切ってしまうんだということがベースにありまして、それがすべての基本になっております。そういうことがあって、あらゆる分野での見直しがあったということです。

フリートキングでいきます。どなたでも結構であります。今までお聞きになったことについての感想でも結構です。事前にお読みになった方もあると思えますが、お読みになった感想、あるいは疑問に思ったことでも結構です。

藤原委員さんどうですか。

藤原眞紀男委員

あの、基本構想が十カ年計画ということで、当初作られたんですね。人口が当初予想されたものよりも何らかの理由によってこのようになっての見直しと思うのですが、その見直しの手法なり統計値なりの予測についての平成18年に整理なり計画された時点で、その時に、今回の見直しに比較して改善された点とかそういうものはあるでしょうか。あるいは、全く同じ方法で今回の計画も作られたのでしょうか。その辺ちよつとお願いします。

菅原昭造会長

どうぞコメントをお願いします。

企画調整課古川係長

人口に関する資料につきましても、前回も何種類かの統計の推計を立てまして、人口の推移を検討したところでございます。その時にも楽観視していたわけでもないんですけども、確実に減ることは見込まれていましたので、そういう推計を立てていたところですが、実際はそれ以上に進行していたということで、今回もいろんな統計を加味しまして、10万人を切るというショッキングな数字にはなっているんですけども、そういった部分で新しいというか、今の状況を踏まえた数字で推計値を出したところでございます。

菅原昭造会長

ありがとうございました。なんか納得しないような感じですが、よろしいですか。

あの、なかなか予測できないだろうと思うんですけどね。石鳥谷地域の場合、前の会議でもお話しているんですが、平成21年ですか、生まれた人が70何人ですか、亡くなったのが200人台と、そういうことはなかなか、統計的なことでは予測できない面もあるんじゃないかなという思いを致しているわけでありまして。しかし、統計学からいきますと頼れるところはそこしかありませんので、そういう意味で今回の見直しということでありまして。

他にどうですか。柳原委員さん何かございせんか。

柳原榮委員

はい。会議に遅れましてすみません。

菅原昭造会長

いいえ。

柳原榮委員

一応これ見せられましたが、総合的な文面については正しくこのとおりだと、私も認識しました。課題ということで、出してきた部分についても「推進します」「努めます」そういう文言、文面なものですから、形でそれを各論的なものやってくれるのかというのは、会長がお話しておりましたけれども、どういう形でそれが出されてくるのかという点について掘り下げて質問できるのは質問したいなと感じております。

菅原昭造会長

実施計画の事柄についての説明をお願いします。実施計画というのはこんな形だというのを、あるいは論理を。

企画調整課古川係長

計画書の1ページのところをご覧いただければと思います。先ほどの説明でも申し上げましたが、見直し素案というものは、この図で言うところの基本構想と基本計画

という部分になっております。総合計画という性格上こういう表現になっているんですけども、具体的な課題等に対する対応としては計画事業ということでこちらにも載っておるんですが、実施計画、3年毎に立てる計画があるんですけども、こちらの方で総合計画で謳ってる精神のものを具体的に見える形で事業としてお知らせしていく考えでございます。

菅原昭造会長

ということでございます。ほかございませぬか。川村委員さんどうですか。農業問題もかなり出ていますが。なかなかTPPもあります。またまた見直しがあるかもしれませぬが。

川村茂委員

計画書を拝見させていただきましたが、現状認識の中で5カ年後の計画という内容なわけですが、現状認識は当然お互いの頭の中では、或いは数値の中では認識できるわけですが、今の社会情勢の中で5カ年後というのはすぐそこに手届くところに来ているわけです。文章はいかようにも作りますが、結果として、市としての計画はこの初稿でいいと思うんですが、いわゆる市の中でも都市部と農村部といったような、格差なり生活環境が大きく変化する中でそれらをどう表現されてくるのかということが興味があります。産業の関係で農業ということがいわれましたけれども、例えば、今の農業は「焼け石に水」状態の農業政策であることは、私なりにはそう思っております。だからといって5年後にこれが好転するかという保障は何もないし。それから後継者は逆にマイナス状態になり、国とか県とかというところは他産業に依存するような施策をとりつつありますが、しからば、農業者はどういう生活環境に落ち着くものかという具体的な話はそういうところに行くのですが、そういったようなことが、これから、どのような表現で出されるかと思っておりますので。せつかくここまで作った資料を更に地域毎、あるいは集落構成なども含めて、説明なり計画が聞かれれば、なんとなくついて行きそうな気がします。

菅原昭造会長

何かコメントございますか。今の事柄について。総合計画、基本計画の段階ですから、ある意味では総合的な部分が多いわけです。実施計画の段階ではいろいろ出てくるかもしれませんが、いずれ農村問題、農業問題が、特に石鳥谷町の場合ですね、深刻だというふうに感じます。それで、元気の出してくる文言が出てくればいいのかという感想だと思っておりますけども。

企画調整課古川係長

あの、会長が最初におっしゃったように、これが市の方向性を示す政策全般にわたる基本的な27年度までの取組みで、その方向性での総合計画の期間内での見直しですので、そもそもの計画を立てた時点での計画が、地域別の計画ではなく、大きな市全

体での大きな動きでの計画です。そういう意味では、見直しでの地域別の計画を立てていくとか、更に細かいコミュニティ単位とか、自治会単位とかでの見直しであるとかをこの計画を受けて立てていくというものでございませぬので、そのところはまずご理解いただきたいと思ひます。そして、農業の関係については、確かにTPPの案件が出たりして、国政レベルというか、世界レベルで大きな動きが出てるところなんですけども、それらのところでの、いわゆる、国レベル、大きいレベルでの動きが出た時には、この総合計画に書いていない内容であっても当然対応しなければならない要素が出てくると思ひますので、そういう国際的な動きとかについては、この部分に拾いきれない部分もあります。これは、3月議会に出す予定のものでありますので、これからもいろんな各国とのやり取りででてくると思ひますけれども、可能なものについては反映されていきますけれども、それを超えてなお、多分、大きな問題として、農業の問題は引き続きあると思ひますので、それらについては、たとえ計画、基本計画になくても、当然、農業者のみなさん、あるいはJAとも協議しながら農業を守る政策というのをやっていかなければならないと思ひます。そして、農業というのは、他の2次、3次産業と違って、国土に根付いている産業だということがあると思ひますので、そういう意味で国でも、農業者の所得補償というような、ほかの2次、3次産業ではやってない手法をもって、手当をしているというのがあると思ひますので、その農業に対する根本的な部分が国として、一気に農業を切るとするのは国土の荒廃につながることに思ひますので、私的には、そういうことは、急激な産業転換というのではないと思ひますので、やっぱりそれに対して、どういふ手当をしていくのかというの、国レベル、県レベルと合わせて、市でもどういふ対応、農協とも一緒になりながらどういふ対応ができるのかというのをやってかなきゃならない部分だと思ひます。私的にはそう思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

菅原昭造会長

そのとおりだと思ひますね。どうぞどなたか、ほか。今回、説明を受けたものについて、ある意味では深く掘り下げて、更にお聞きしたいことをお聞きしてほしい。こういう意味であります。次回は、今日の説明を聞いたうえでの協議であります。質疑についてあれば、お聞きしたいと思ひます。菅原委員さんどうですか。

菅原久男委員

基本構想と基本計画については、素晴らしいと思ひます。これを次の実施計画、いかにその具体的に示して実践できるかというそこがポイントだと思ひます。素晴らしいと思ひます。

柳原榮委員

よろしいですか。

菅原昭造会長

はいどうぞ。

柳原榮委員

今回の進め方についてですが、1章から6章まであるのですが、これを全部含めた中で意見交換するのか、1章毎にやっていくのか。次回で諮問は、一応締め切るのか。

菅原昭造会長

今回はですね、先ほど課長さんがお話しされたように、3月議会に提案するわけですから、いつまでも答えを出さないでいるわけにもいきませんので、今回はできれば答申のまとめをしたいと思っています。それが今度は、更に上の方に行きます。総合計画審議会の方に。

どうぞ。ちょっとお待ちください。

課長さん、今回は各章毎にやりますか。

高橋地域振興課長

そういうご希望があれば。

菅原昭造会長

進める側ですから、私らの判断でできますから、みなさんの意見を尊重して今回は。

柳原榮委員

どんどん1日で話すということは、それなりに、全体だとそっち行ったりこっち行ったりするような気がして、1章についてあるかないか、2章についてあるかないかという形でやらないと。

菅原昭造会長

そうですね。会議のすすめ方については市役所からお任せをいただいておりますので、そういうことで。

はい、どうぞ。

藤原真紀男委員

この総合計画で、重要な部分で財政計画について「調整中」と書いておられますが、これは、このご審議される時までにご準備されるということなののでしょうか、それとも出せないということなののでしょうか。

企画調整課市川課長

財政計画については、冒頭うちの係長が説明したように、来年度予算を今調整中でして、それに向けて国の方でも地方財政計画というか、地方財政対策も1月に示されて、それに基づいて交付税の見込みどうなるかという部分を含めて23年度の当初予算を

編成するんですが、23年度の当初予算がだいたいいつも固まるのが、1月の末頃なんですよ。だいたい1月の末頃から2月の初めくらいにかけて、庁内的には内示という形で決まるんですが、お示しできるのは、その2月の初めあたりの実施計画の案をお示する時に、その頃になると23年度当初予算に合わせて、23年度の実施計画の内容もだいたいお示しできると思いますので、その時にすみませんが、財政見通し、27年度までの財政見通しも合わせてお示しすることになります。次回の中旬の時点ではまだ査定の最中になりますので、よろしくお願いいたします。

菅原昭造会長

基本計画の段階での今回の諮問ですので、財政計画は今課長さんがお話したように、2月のあるいは3月の協議会の時点での協議会でお話いただくことでよろしいのでしょうか。当然、計画、構想と財政がリンクしていることは間違いないんですけども、作業の日程から、そうせざるを得ないというようなことであります。

他にございますでしょうか。

まずみなさんでじっくりお読みいただいて、このアンダーラインの個所でも事柄を吟味していただいて、次回に繋げたいと思いますがそういう形でよろしいでしょうか。

今日、今いただいたものでもありますし、前に送付されていますけれども、正直な話、そんなに細かく読んでいる方がないと思いますので、これからゆっくりとお読みいただきたいと思います。よろしいですね。

それでは、1番目の事柄につきましては、以上で今日は諮問をいただきました事柄についての質疑応答ということで、締めさせていただきます。ここで若干休憩をいたします。

高橋地域振興課長

その前に、次回のスケジュールを。

菅原昭造会長

ちょっとだけお座りください。

高橋地域振興課長

今日は、説明を受けたばかりということで、次回いろいろなご意見をいただきたいと思っているところなんですけど、実は先程も出ましたが、3月定例議会に出したい案件でございまして、実は急いでいるという状況もあります。ということで、年明けですね、実はうちの方の日程を調整したところ、1月12日の水曜日にお願ひできればなと思っておりますが、委員さん方のご都合をお伺いしたいと思います。諮問事項については、過半数以上の委員さんの出席が必要になりますので、みなさんご都合をお諮りしていただきたいと思います。時間につきましては、特に指定するものではございませんが、12日でよろしいかお諮りいただきたいと思います。

菅原昭造会長

勤務先を持っている方もおられますので、時間は一任されております。極端に言いますと、夜でもかまいませんが。市役所の担当の方もおりますので、できれば昼の時間帯にしたいとは思いますが。午前でよろしいか、午後でよろしいかということについてご相談申し上げたいと思います。1月12日の午後はいかがでしょう。

委員から、異議なしの声あり。

菅原昭造会長

よろしいですか。今日欠席の方もおられますが、それでは午後ということで、午後2時にお願ひしたいと思ひます。今日、説明を受けたものを確認して、先ほど柳原委員さんが申したように出来るだけ丁寧に協議をして参りたいと思ひます。

ここで、若干休憩をいたします。市役所の方々は次の予定がありますので、この席でご退席いただきます。ありがとうございました。

企画調整課市川課長

ありがとうございました。

< 暫時休憩 >

4 説 明 小さな市役所第2ステージ合衆市イーハトーブ花巻構想について 高橋地域振興課長が資料により説明。

菅原昭造会長

地区長がなくなるようだね。どうぞ。

藤原眞紀男委員

当初は、指定管理については、振興センターのほかに体育館ですとか運動公園ですとかいろいろ計画されていたようでしたが、これは振興センターだけにしましょうと決まった背景には何かあるのかと思ってお聞きします。

高橋地域振興課長

最終的には、全部の施設を指定管理に向けたいんですが、27の振興センターのそれぞれのいろんな事情がありまして、一気に物事を進める方向には、時間的なこと、いろんな調整が必要ということで振興センターだけということになったようです。後は、順次切り替えていくという感覚であります。例えば、市役所内部の話ではありますけれども、例えば、大瀬川振興センターはまちづくり部の所管、隣にあります大瀬川構造改善センターは農林水産部の建物と所管が違う部分もございまして、それぞれの設置の条例も違います。条例の見直しもありますので、とりあえず今回は、振興センタ

一だけと。

今回の見直しの修正案もお配りいたしましたけれども、27まとめるといろんなご意見を頂いておりました、数の中には、せっかく資料の案を示していても方向がぶれていてお叱りを受けている所もあるんですけども、27もあると色々なご意見があるということで、まずとりあえずこういう形になったんだなというイメージであります。

菅原昭造会長

あと、何か。はい。

川村茂委員

今まで説明された内容の中で、私が未だに頭の中で整理できないことが一つあります。コミュニティ支援体制とういうことで、職員を臨時職員待遇で雇用することの予算を付けるという話を聞いておりますが、その予算の中身の資料を見ますと、1カ月12万円つまり1日8時間週5日勤務で。私、考え方がちょっと理解できないっていうのは、石鳥谷町内の各振興センターの中で、そういう条件で既に雇用しているところが何件かあると聞いておりますが、なかなか難しいですね。というのはこのご時世です。人はいっぱいいるとのことですが、12万円の給料で、腰かけ程度の仕事だとは評価されるかもしれませんが、しかし、一旦仕事に就いた時は責任を持ってこなす、自分も生活しなければならぬということを考えあるとわせると、どこから考えればそういったような金額がでるのか。あるいは今、私なりに思うのは、コンビニの経営体制がそうなんですよね。時給なんぼで、入れ替わり立ち替わりで危険と隣り合わせで仕事をさせて暮らしているのは。行政がそういう仕事、あるいはそういう考えで、支援と言えるかと。その辺疑問に思っているんですが、いかがでしょうか。

菅原昭造会長

予算単価の話だとは思いますが。

高橋地域振興課長

コミュニティの事務局長、あるいは事務局員というのは、自立する方向に向かってほしい職員ということです。支援という言葉が出ているのは、二人体制から一人体制になるので、そこをバックアップしましょうというところで、支援という言葉が出ています。人口も減っている、お金も減っている。地域で出来ることは地域でやってほしい、自立の方向に向かってほしいという考え方です。ただ、今、川村委員さんからありましたけども、同じような発言が、コミュニティ会議の代表者の方々が集まった時も、一人二人ばかりでなく、同じような意見が出ていました。ということで、今のところ川村さんのご質問の回答になるようなことが私の方から出来ないんですが、方針はいいんですけども、お金の方は。あるいは、市からはそういった形だけでもコミュニティ会議の予算で嵩上げできるという説明もされているんですけども、私のほうから具体的な説明ができなくて申し訳ないんですが、いずれ課題があるというような

状況でございます。

菅原昭造会長

会議でも出たんですが、予算単価はそのとおりなんですね。今課長が話したように、コミュニティ会議の実行予算の中に組み入れて嵩上げすることもやぶさかでない、というような言い方をするんですが。それはそれとしていいでしょうが、額はどこかを増やせばどこかを減らす、その辺がなかなか、意見が統一できないんですね。

川村茂委員

いえ、私は説明した中味を、私なりの考えをいうと、人を一人雇うという責任は、ある意味では、少なくとも2、3年は稼いでもらわねば、という前提があるんですよ。周りの人間が、給料なり時給が上がっていくときに、いつも固定で暮らす、仕事の魅力はありませんよね。それからもう一つは、ただ単に、単価安くおさえろと、あるいは安く押さえたことによって、どういう人を雇えるかということ、何も知らない人が来て、「私希望します」と言って、すぐ「仕事見つけましたのでやめます」と言ったって、おかしい話だと思うけれど現実の話です。魅力のない仕事ではなく職員待遇であるということです。もうひとつ、市役所の職員が1,200人体制から800人に下げて減らすという時代に、そういうふうな人事雇用を軽くみて、労働組合なり職員の人達はそれで納得するのか。自分達だってそういう待遇になったらどう生活するのかということを考えないのか。ということを考えるんです。私は八重畑のコミュニティですが、応募してくる人をこうして眺めていると、職安に行っても何か仕事を見つけてこいと、見つけてきたら更に、仕事探したからといってハンコついて、今月もお金出してあげるから、という程度の人しか出てこないんですよ。地元の少し地域性の分かる人がいるかということ既に仕事についているんですね。その辺の現実があるんですよ。それで質問しているんです。

菅原昭造会長

これからいろいろと紆余曲折があるんでしょうし、方針だけは決まっているんでしょうし。それは、人材確保が大変だ。

藤原真紀男委員

15万でしたか。

川村茂委員

それは、便法があるのさ。予算の中から上積みしてもいいと、どのくらいが上積みか丁度いいのだから示さないんですよ。いわゆる逃げですよ。60歳の人も12万円、はたちの人も12万円。これもおかしい話だし、分からないわけではありません。世の中全体がそういう状態だし、そういう人を増やしてどうするんだか、それが行政の仕事かと。利益追求の一個人会社ならそれでもなり立つが、危険と隣り合わせで3時間

かの時間で転がして24時間営業するっていうこともありますけども、それと一緒にされない話ではないかという気がするんだが。

菅原昭造会長

これは、哲学の違いだね。コミュニティ会議に下駄を預けられたような格好になっているわけですね。優秀な人材でしかも一生懸命やれる人には、やはりある程度の待遇にしてとなれば、コミュニティ会議の中で総体予算の中で配慮していかなければならないと。なかなかこの辺は、下駄を預けられた方は知恵を出さないと上手い絵は描けないような気がします。でも、何でもやってあげるよ、というような人がいる地域では問題ないんでしょうが、なかなかそういうところばかりでないでしょうから。川村さんの意見はそういうことで。

川村茂委員

はい。いずれも生活に余裕のない人達ばかり、年金で、パソコン使えて遊んで暮らすよというような人ばかりならいいんだけども、そういう人に限って十くらい背負っているから、現実ですよ。どこも。

菅原昭造会長

どうぞ。

柳原榮委員

私、八幡だから八幡しか分からなくてお聞きするんですが、6つのコミュニティでは4月1日から指定管理を受ける準備は出来たんですか。八幡の場合はこの前代議員会で指定管理を受け入れて4月1日からスタートすることで、職員も募集することで話がありました。石鳥谷地域ばかりも揃って指定管理が受けれるようだと思っっているんですが、どうなっているんでしょうか。

高橋地域振興課長

そういう方向で進んでおります。局長さん方がおりますので、局長さん方からお話をいただきたいんですが。

菅原昭造会長

どんな状況かを。

大瀬川振興センター局長

大瀬川振興センターでございます。大瀬川では、指定管理の部分については、役員会の中では指定管理を受けましょうと、1月13日に臨時総会をする準備をしております。提案することは、その指定管理を受けること1本であります。4月1日から指定管理を受ける場合において、指定管理のための事務局長を置かなければならないん

ですが、その人材の方も一人内定ということで準備を進めているところであります。

菅原昭造会長

指定管理は構造改善センターもですな。

大瀬川振興センター局長

指定管理の対象ではありますけれども、今回は振興センターだけです。部の方からは、内々に24年には、隣の構造改善センターとか運動公園もありまして、だいたいの話は来ています。

菅原昭造会長

他の方も聞かせてください。

八日市振興センター局長

八日市の方は役員会で決定しています。事務員ですけれども、9月から6カ月間雇用しておりまして、コミュニティの方では4月からというのは絶対無理だということで、事前に勉強してもらおうということで既に雇用してございます。30代で、コミュニティが分からない方です。私は、そういう時間は必要だと思います。4月から急にやれと言われても難しいと思いますし、本人も勉強したいということで週4日で半日4時間です。だいたい5、6万くらいですか。その方は、東京から帰ってきた方で、14、5年こちらにいなかった方です。やはり応募した時はやってみたいということで。分からないとうことでしたが一生懸命勉強してやっております。

菅原昭造会長

新年度もパート扱いですか。

八日市振興センター局長

新年度ですが、8時半からの勤務ですから給料。給料だからといっても、一人の雇用じゃなくてもいいんですよ。半日ずつ交代でということもできますので。それぞれのコミュニティの考え方で。

菅原昭造会長

次、新堀。

新堀振興センター局長

新堀コミュニティ会議では、12月に役員会を開きましてその中では受けましょうという話し合いになっています。具体的には総会で決定しましょうということで1月9日に総会を開催いたします。その時の提案は、指定管理を受けましょうということと、受ける場合は規約を改正しましょうということであります。あと、4月からの事務局

体制につきましては、今、事務局長、事務局ともお探し中のことであります。人事はまだ決定しておりません。

高橋地域振興課長

ということで、6つの振興センターとも指定管理を受ける方向で動いております。事務長、事務局員の体制ですが、その件については、内定した所もあるようですし、まだの所もあるようで、色々のようです。勉強してもらっている所、探しているがなかなかというところなど、そういう状況のようです。

菅原昭造会長

あとございますか。

伊藤賢治委員

業務の見直しは本当によかったと思っております。八幡は1年に数件しかない手続ですが、どうしてか、場所的に支所に近いものだからこれはやむを得ないものなんです。ただ事務所が狭くている所がないと、あと半間広げようというような話をしておりまして、23年度は廃止しなくてよかったなと思っております。それでも、また少ない時はまた考えればいいわけですから、ありがたいなと思っております。

菅原昭造会長

あるものを廃止されるというのは容易なものじゃないですものね。そういったような状況になったら見直しすればいいわけですし。ほかございますか。

それでは、イーハトーブ花巻構想については、合衆市ですか、説明をお聞きしましたが、ほか、なければ、これでおしまいにしたいと思っておりますし、今後の会議におきまして、話題になると思われます。その際にご提言をいただきたいと思っております。

その他に入ります。

高橋地域振興課長

はい。みなさんにお配りしております、石鳥谷地域課題につきまして、触れていきたいと思っております。座って失礼いたします。配付しております「石鳥谷地域における地域課題」ですが、これは、8月19日に開催しました第3回会議での発言用旨をまとめたものでございます。10月6日の会議の時に配付するべきでございましたが今回になってしまいました。申し訳ございませんでした。地域課題としては、一つ目が「在京町人会組織の状況と花巻市の対応について」、そして二つ目が、「家庭の安全安心は健康から」ということでありまして、8月19日の時に、いろいろとご意見を頂戴いたしているところでもあります。それぞれに関連する事項について、みなさんにお知らせをしておきたいと思っております。

まず、在京町人会の関係でございますが、平成22年度の在京石鳥谷町人会の総会・親睦交流会は11月7日の日曜日に東京の上野精養軒で開催されております。昨年は、

新堀コミュニティ会議から東京に出向き、交流をしていただきましたが、今年は、八重畑コミュニティ会議の方々に親睦交流会を盛り上げていただきました。川村はつ子さんには民謡、八重畑小学校神楽クラブには八幡舞、十日市神楽保存会には権現舞を披露していただきました。コミュニティ協議会の役員さんを含めまして総勢 30 人ほどの御一行でございました。また、八重畑から参加した神楽等に誘われたのか、八重畑出身の会員の参加が 10 人ほど増えたと聞いてございます。昨年からコミュニティ会議のご理解のもと、石鳥谷からの交流派遣は 2 年目となり、八重畑コミュニティ協議会の地域芸能は、ふるさとを実感しながらおおいに盛り上がっております。町人会のみなさん、そして八重畑コミュニティ協議会のみなさんに大変喜んでいただきました。私共も双方の交流が深まったものと感じて帰ってまいりました。こうした形で交流が深まっていけばと思っているところでございます。

次に「家庭の安全安心は健康から」の関係でございますが、この課題に関係する、関連すると思われる講演会が、11 月 27 日石鳥谷生涯学習会館でありました。この講演会は、「いわて親子家庭フォーラム」並びに「花巻市青少年市民会議の 20 周年式典」の一環として行われたもので、東海大学の小澤治夫教授の講演が行われました。概略をお話しますと、小澤教授が小中高生を調べましたところ、朝ごはんをしっかりと食べているグループと食べていないグループを比べると、体力が全然違うことが分かりました。また、文部科学省の調査では、英語、数学、国語、理科、社会のどの教科でも、しっかりと食べている子どもほど点数が高いという結果が出ているという結果でした。また、今の子どもは、遅寝遅起き朝御飯抜きで排便もなく、低体温状態の子どもが多い状況。これは 30 歳代、40 歳代の親の世代が食べていないことからそれが子どもに伝わっているというお話もありました。「今の日本は、家庭から頑固おやじと肝っ玉母さんが消え、学校からは名物教師が消えた。モデルにする親がいない。私たち大人の責任だ。」と締めくくっておりました。この講演は、「家庭の安全安心は健康から」に大変、参考になる内容であったと感じております。当日は 300 人ほどの方がこの講演を聞いておられました。今後機会を捉えまして、繰り返し訴えていくことが必要であると感じて参りました。

以上、地域課題の関係につきまして、ご報告を終わりたいと思います。

菅原昭造会長

何か、お聞きしたいことございますか。町人会に行った人たちは随分充実したようですね。

川村茂委員

私から、その件について。

菅原昭造会長

はい、どうぞ。

川村茂委員

八重畑コミュニティ協議会では、ただ単に、東京に行って神楽をやるといった考えではなく、都市交流という位置づけとして、参加するに当たっては、コミュニティの主な役員さん方は自前で参加するという考えと、併せて今後も継続して行こうという趣旨で事業採択して行ったわけです。従来は、今回もそうなのですが、東京町人会との交流というと神楽だ、鹿踊りだってお金が掛かるわけです。今回だって30万、40万も掛かっていますが。やり方によってはこういう方法もあるということを確認しようという意味でも行ったわけです。川村はつ子は、タダ。たまたま東京に行っていたこともあって参加していたわけですが、そんなことで行ってみてびっくりしたことは、八重畑の19年度生まれの同級会みたいになっていて、お互い呼びかけ合って参加していると。私も40年ぶりに会った人もいて、そういうこともあって、やはり町人会对しては、今後も継続していくことで話合いしています。

それから、健康管理のことについては、私たちもコミュニティでも取り上げておりますし、私個人では、集落でも実態を呼び掛けて、認識をしてもらうということと、参加してもらうという活動をしています。

菅原昭造会長

はい、ありがとうございました。

役員の人たちが自前で行ったという話は聞きましたが、ある意味では、お互いに参考になることだと思います。何でもかんでもお役所にぶら下がるというスタンスだと、お金の切れ目が縁の切れ目なものね。ある意味では、時間的な面とその気のある人たちでの熱意で継続していくことが理想ではないでしょうか。

あとなければ、終わりにしたいと思いますが。よろしゅうございますか。

5 その他

高橋地域振興課長

その他のその他ですが、ご説明しておりましたが、今回の会議は諮問に係る会議でありますので、7,300円の報酬をお支払いする会議でございます。振込になりますので、口座を担当者から確認を受けた方もあったかと思いますが、振込になった時にはその分だということでご理解をいただきたいと思います。

菅原昭造会長

あとありませんか。それでは終わります。

5. 閉 会 菅原久男副会長が閉会を宣言した。11:15